

## 富士総合火力演習

### カレッジ防衛モニター 西山 望

8月18日にカレッジ防衛モニターの一環として富士総合火力演習予行の研修に参加しました。富士総合火力演習とは、毎年8月頃に静岡県御殿場市の東富士演習場で実施される陸上自衛隊が行う演習であり、自衛隊に対する国民の理解を深める大切な取り組みの一つであります。本番を観覧するにはチケットに応募する必要があります。今年の抽選の倍率は29倍となり、昨年の24倍に比べて更に高くなりました。日本国民の自衛隊への関心や理解が年々深まっていることが窺えます。また、国防への意識が高まりつつあることの表れでは無いでしょうか。

山の天気は変わりやすいとありますが、当日は天候にも恵まれ殆どのプログラムが実施されたと思います。人員は約2300名、主要装備品においては戦車・装甲車が約80両、各種火砲が60門、航空機が約20機、そのほか車両が約600両と非常に大きな規模で行われました。予行では飛びませんでしたが、23日の本番では航空自衛隊の戦闘機のF12や米軍のオスプレイが飛行するなど観覧者を楽しませました。各種最新鋭の装備によって行われる実弾射撃演習では、その迫力を肌で感じることができ、これが日本を守る力であると実感しました。

日夜、厳しい訓練に励んでいる陸上自衛隊の隊員の皆様や自衛隊という組織がこの日本にあることに對してとても頼もしく感じました。

## 富士総合火力演習研修

### カレッジ防衛モニター 増田 知剛

今回のモニターでは総火演を見に行きました。予行とはいえ内容は本番と同じ、以前から楽しみにしていたイベントです。過去に何度か観覧を応募していましたが一度も当たらず今回が初観覧となりました。

総火演は陸上自衛隊が実弾を使って演習を公開するということで音の大きさや発射の迫力を想像していましたが、実際に戦車から弾が発射される迫力と轟音は、とても想像とは比べものにならないほど大きく体にドスンと響き渡りました。演習プログラムは離島防衛・奪還を想定しており、昨今の防衛事情を組み込んでいることも理解できました。演習は終始、緊張感の張り詰めた中で行われ、隊員達の真剣さも肌で感じとることができました。

今回の演習を見た僕は、複雑な防衛事情の中で、日本を守り抜くという自衛隊の「覚悟」を強く感じ、いつ何があってもすぐに対応できるように日々訓練を積み重ねてきているということも実感できました。